


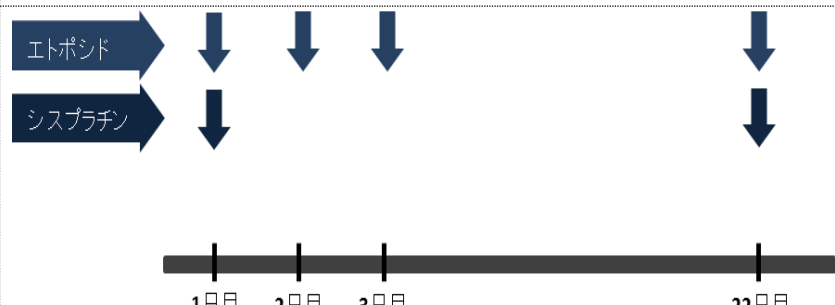
抗がん剤治療に関する説明及び同意書

●あなたの病気・治療法について

シスプラチン＋エトポシド療法

1日目にシスプラチン、エトポシドの点滴を、2日目、3日目にエトポシドの点滴を行い、これらを3週間ごとに最大6コースまで、繰り返します。

シスプラチン＋エトポシド療法(スケジュールと方法)

薬剤	方法	治療日(目安)
シスプラチン ＋ エトポシド	点滴 	 <p>エトポシド</p> <p>シスプラチン</p> <p>1日目 2日目 3日目 22日目</p>

●副作用について

副作用の現れ方、出現頻度には個人差があります。抗がん剤による副作用は、薬で予防できるものや、症状を和らげることができるものもありますので、副作用が辛いと感じたときにも担当医にお知らせください。

起こりやすい副作用	白血球・血小板減少、貧血、だるさ、腎機能障害、脱毛、吐き気、吃逆(しゃっくり)
時として起こる副作用	便秘、しびれ
まれにしか起こらないが重い副作用	間質性肺炎、アナフィラキシーショック

●起こりやすい副作用

① 白血球減少

白血球は、細菌から身を守る役割(免疫機能)を担っているため、ある一定以上の数がないと感染症にかかりやすくなります。この薬剤は白血球数を低下させやすいとされており、状況によっては「白血球を増やす注射」を投与することもあります。最も白血球数が低下する時期は投与7日から14日目とされています。この時期あたりで発熱を認めた場合には、早期に担当医にお知らせください。

② 血小板減少

軽度なものが大半です。治療開始から 1~2 週間目に最も低下します。血小板は止血に重要な機能を果たしています。血小板の数が極端に低下した時や(2 万未満)、出血がみられる場合などは、血小板輸血を行うことがあります。

③ 貧血

酸素を全身に運ぶ赤血球が減少することがあります。1~2 カ月目以降に起こることがあります。貧血が強い場合には、輸血を行うこともあります。

④ だるさ

症状の軽いものを含めると、多くの方に現れます。しかし、肺がん自体でも同症状が出現することもあります。

⑤ 腎機能障害

個人差が大きいですが、特にシスプラチンに関連して出現することがあります。予防目的に点滴初日は比較的大量の補液を行います。腎障害がひどくなった場合には、薬剤投与を中止することもあります。

⑥ 脱毛

治療開始 2 週間後くらいから髪の毛が抜け始めます。しかし治療が終了して 1~2 か月後には髪の毛が生え始め、6~7 か月後には、治療前と同じくらいまで生えそろういます。

⑦ 吐き気

症状の軽いものを含めると、多くの方に現れます。吐き気止めを使って、できるだけ吐き気が出ないようにします。症状が高度の場合は、2 コース目より予防薬を追加することがあります。

⑧ 吃逆(しゃっくり)

治療開始から7日以内に起こることがあります。症状が続く場合は、吃逆(しゃっくり)をとめる薬を使用することもあります。

●時として起こる副作用

① 便秘

抗がん治療を受けている間、便秘が起こることがあります。便を柔らかくする薬や腸の動きを促す薬を使って、便通を改善するようにします。

② しびれ

症状の軽い方がほとんどですが、治療を始めて 1~2 か月後から、手足や足先にしびれが出る場合があります。治療終了後も症状が続く場合があります。

●まれにしか起こらないが重い副作用

① 間質性肺炎

間質性肺炎(肺臓炎)は、発症した患者さんの半分近くが命をおとす危険な副作用です。風邪のような症状(咳がひどくなる・息切れ・発熱など)が現れたら、担当医に伝えるようにしてください。

② アナフィラキシーショック

極めて稀に、点滴中にショック状態や呼吸困難が出現することがあります。点滴中に痒みが出たり、息苦しくなった場合には、すぐに知らせてください。

